

第20回

# 難病・遺伝医学 セミナー

講演: 多因子遺伝における最近の進歩

2020年 (2020年3月11日より変更)

12月16日 **水** 18:00-19:00

順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

講師紹介: 鎌谷 洋一郎 先生

(東京大学大学院新領域創成科学研究科

メディカル情報生命専攻メディカルサイエンス講座 教授)

座長: 岡崎康司 (難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター)

司会: 新井正美 (難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター)

**概要:** 家系図を見るとメンデルの法則に沿った発症を示す希少なメンデル遺伝病 (単一遺伝子疾患) の原因遺伝子は、20世紀後半から解明が始まり、すでに診断や予防介入など臨床応用の可能性が示されていたり、実施されている。一方、「心臓病家系」「がん家系」などといった、メンデル家系を示さないが遺伝性が示唆されるありふれた疾患 (多因子疾患) の遺伝的構造は、ヒトゲノムが解読され21世紀になって解明されはじめてきた。現在では1疾患あたり少なくとも数十か所の感受性遺伝子座が見つっている。さらに、多数の遺伝的変異を用いた「ポリジェニック・リスク・スコア」による疾患発症予測の可能性が示されているが、その実現可能性は欧米系集団に限られており、このままありふれた疾患のゲノム。あ医療を実装しようとする日本人を含む非欧米系集団とのあいだに医療サービス格差が生じる可能性が危惧されている。ありふれた疾患のゲノム解析の現状と、われわれの研究成果を紹介する。

申込方法: 以下の申込フォーム・QRコードよりお申込みください。

※開催日までに詳細と招待URLのご案内メールをお送り致します。

<https://forms.gle/npTQAWdYfd478nqQ8>

LIVE配信 (Zoom) にて開催

12月15日 (火) 17時締切

※当日は、順天堂大学10号館1階105カンファレンスルームで講演致します。聴講もできますのでお時間がありましたら会場でのご参加もお持ちしております。



お問い合わせ

難病の診断と治療研究センター/ゲノム診療センター  
新井/原田 (内線71407/5167)